

呉で輝く 若者たち

vol.116

こうち ゆうか
河内 悠華 さん

プロフィール

18歳。呉三津田高等学校を卒業後、海上保安大学校に入学。好きな場所は呉栈橋から見える夕暮れの景色。

授業では、法律や英語、数学といった学科に加え、体力錬成や制圧訓練など、将来に直結する専門的な学びが続きます。5月にはカッター（10人以上で漕

ぎ）を使い、呉湾を進む約52キロの端艇巡行にも挑戦しました。「腕はパンパンになるし、波で思うように進めないことも多い。何度も心が折れそうになりましたが、誰か一人でも諦めたら絶対に前に進めないのです、必死でした」。実習を終え、海岸に戻ったとき、仲間とともに見た夕日に照らされた海の景色は、今でも忘れられないと話します。

河内さんが海上保安大学校への進学を決めたのは、高校2年生のとき。公務員合同説明会に参加した際、海上保安庁が女性も活躍できる職場であり、厳しさの中に強いやりがいがある仕事だと知り、その世界に飛び込む決意を固めたと言います。「密漁の取り締まりや海難救助など、海上保安官はまさに『海の警察』。人生をかけてやりたい仕事だと思ったんです」と話してくれました。

「毎朝6時半に起床し、清掃と着替え。号令に合わせて整列し講義に向かう」。入学直後から始まった規則正しい寮生活に、最初は戸惑いの連続だったそうです。「慣れない集団生活や言葉づかいに緊張してばかりでした。でも、同じ目標を持つ仲間と一緒に、頑張っています」。

「海上保安官といっても、潜水士や国際捜査官など、さまざまな職務があります。それぞれ目指す道は違っても、『海を守る』という想いは同じ。だからこそ、声をかけ合い、支え合いながら続けていけるのだと思います」。

「今日の昼ご飯はカレーだよ。やったー！そんな何気ないやりとりも、未来の海上保安官たちの絆を育む大切な時間の一つです」。

「警備救難業務に携わり、海の警察官として頑張りたい」。河内さんのまっすぐな思いと日々の努力の積み重ねが、やがて海を守る確かな力へと育っていきます。

「海上保安官といっても、潜水士や国際捜査官など、さまざまな職務があります。それぞれ目指す道は違っても、『海を守る』という想いは同じ。だからこそ、声をかけ合い、支え合いながら続けていけるのだと思います」。

YouTube

インタビューの様子はこちら▼



UD
FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています

■再生紙を使用しています
■QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です

10言語対応「市政だより くれ」デジタルブックで配信中！

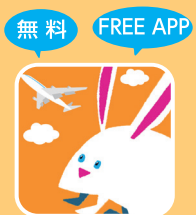


- ブラウザでもアプリでも、スマホやタブレットで読める
- 文字サイズを調整できる
- 動画や写真も楽しめる
- 10言語で読める・聞ける（音声読み上げ対応※）



【対応言語】

日本語、英語、中国語（簡体字・繁体字）
韓国語、タイ語、ポルトガル語（ブラジル）
スペイン語、インドネシア語、ベトナム語
※ベトナム語は音声読み上げに対応していません。



・ブラウザ版は音声読み上げには対応しておりません。音声読み上げには、無料アプリ（カタボケ）のインストールが必要です。

編集・発行
呉市役所 秘書広報課

〒737-8501 広島県呉市中央4丁目1番6号 代表 ☎ 25-3100 秘書広報課 ☎ 25-3236

市政だより 令和7年10月号